

JLACCとは？

Japanese Language and Culture at Clarendon

米国サンフランシスコ市立Clarendon小学校で約50年間にわたり培われてきた、日本語・日本文化教育の実践モデルです。公立校の正規カリキュラム(指導言語は英語)と並行して日本語・日本文化を学ぶ、特色ある教育プログラムとして受け継がれています。

JLACCモデル実践者と学ぶ、2026年度新たなセミナーシリーズです！

「おいてけぼり」をなくす 実践シリーズ！

前回8/19の【「おいてきぼり」をなくす実践シリーズChapter 1】では、教室に適応しにくい子どもたちの行動やつまずきの背景と、学習者の多様性を前提とした授業作り、加えて教師も抱え込み過ぎない実践の有り方を、皆さんと探求していきました。今回は、それでも十分な対応ができていないと感じる子に対する個別指導を考えていきます。

Chapter 2

11/11(水)
10:00~11:30
* 日本時間

「良い子とは誰のこと？」

前回のテーマ「多様性を前提にした授業づくり」だけでは対応しきれない場面に出会ったとき、私たちはどのような個別支援ができるのでしょうか。

「良い子」「大変な子」というラベルの裏にある、一人ひとりのニーズや強みに目を向けながら理解を深め、また教師1人でどこまで対応し、どこから周囲と連携するのかという問いにも向き合います。

当日は参加者同士の対話を通して、それぞれの現場に活かせるヒントを探していきましょう。



▼ お申し込みはコチラ ▼

【申込先】 <https://forms.cloud.microsoft/r/gGfn9b5aL6>

【申込〆切】 11/2 (月) *日本時間

橋本由佳 先生

トロント大学で教育学博士号を取得。UNESCOアジア太平洋事務局でアジア11か国の初等教育推進に携わった後、カリフォルニア大学バークレー校講師を務める。サンフランシスコ市立クラレンドン小学校で13年間、JLACCプログラムコーディネーター兼日本語教師としてカリキュラム開発を主導。現在はKotoba Bridge LLC代表として、日本語・継承語教育の発展に取り組む。

マンフレッド涼子 先生

サンフランシスコ州立大学でMATESOL(英語教授法修士号)を取得。カリフォルニア州複数教科教員免許を所持。クラレンドン小学校で担任を務め、帰国後はインターナショナルスクールで日本語・ESL(英語学習支援)教員として勤務。2025年、同校での実践をまとめた電子書籍『アメリカ式！多様な子どもたちの才能を引き出す魔法～自主性のある学びの現場から～』を出版し、教育現場へ知見を発信。